

平成29年度茨城県立病院運営評価委員会（第1回）の開催結果

日時：平成29年8月8日（火） 18：25～19：50

場所：茨城県庁11階 1103会議室

【委員】	
城西大学教授	伊関 友伸 氏
日製日立総合病院長	奥村 稔 氏
公認会計士	清水 至 氏
茨城県精神科病院協会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	松村 明 氏
群馬県立小児医療センター院長	丸山 健一 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏

【議事内容・意見等】

○平成28年度第2回委員会における意見への対応

意見	対応
病院の収益性を高めるためには、事務職が経営や企画などの専門性を持たないと対応できない時代になっているので、病院経験を積んだ営業、企画に強い職員の育成・採用や意識改革が重要である。	職員が専門性を身につけることができるよう、病院事業経験者の再配置などに一層配慮するとともに、専門的な知識経験を有する者を期間を限って採用する、いわゆる、任期付職員の選考採用も併せて行い、職員の人材育成や意識改革を図っていく。
医療機器等を導入する場合などにおいて、償却負担や収益計画をたてて、投資計画を考えることが重要である。	新たな医療機器等を導入する場合においては、想定される収益の増加額と、機器の調達及び維持に係る費用の増加額について算出し、収支見通しを立てたうえで、導入の可否を検討している。
医師の派遣などにより、過疎地域などの地域医療を支えている病院を応援しながら、今後の医療を考えていくことも重要である。	診療等応援業務派遣制度による医師不足地域の中核病院への支援を行っており、また、今年度から、こども病院で後期研修3年目の医師を県央・県北地域の連携施設に一定期間派遣する取組みを始めることとしている。今後これら取組みをさらに充実させていく。

○主な意見

- ・ 収益を上げるには診療報酬上の加算の取得が重要なので、医療提供体制を向上しつつ、それをきちんと収益化する流れを、病院の体質として身につけてほしい。
- ・ 中央病院の救急車受入数が多くなっているが、救急医療は若い研修医が集まるので、ぜひ充実させてほしい。
- ・ 今後も高度医療を提供していくのであれば、患者の入退院支援を強化していくべきではないか。